

「別紙」

印西市環境審議会からの意見

■基本目標 1（自然環境）

緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- ① 農作物に被害をもたらす動物といえども、なるべく殺さないで、電気柵などで追い払う方法に知恵を絞り、共存の道を模索してほしい。
- ② 本市の豊かな里山や水辺は、昨今印旛沼や手賀沼の水辺の植物などの自然環境があらされているように見受けられる。

現在の水辺の環境を広く知っていただくため、水辺環境保全のためのイベントの開催、河川の清掃活動を多く実施し、PRを行うとともに環境保全と良い管理につとめられたい。
- ③ 豊かな緑を育む里山や水辺自然を市民に積極的に広める。
- ④ 遊休農地（放棄田、放棄畑）の積極的活用の施策を進める。低農薬、有機栽培農業を奨励し安全安心な作物の購入を勧める。農作物直売所の宣伝も。
- ⑤ 地産地消の勧め。
- ⑥ カミツキガメやイノシシが年々増加している。特にイノシシは住宅の庭まで来るような現状となり、更なる対策強化が必要です。また、遊休農地の増加、山林の荒廃等農林業政策の強化が望まれます。
- ⑦ 里山は、農業資材や肥料・燃料の供給源とすることで人が働きかけて形成されてきました。そうした経済的な関係がなくなったことや農業の変化で手入れがなされないことになって来ています。「高齢化した農業者の後を継いで農地を耕してくれるような人材の確保と、農家との橋渡しを考えていただきたい。
- ⑧ 手賀沼水系の鳥類は種類や数の多さから自然の豊かさを感じられます。観察場所などの整備が行われることが望まれます。一方「野生生物に餌を与える行為については、街中の自分や家族が責任を持って飼っている以外の猫やハトについても同様ですが、やめるべきと考えます」。また有害鳥獣、特定外来生物に限らず、一定数を超えて繁殖する生物は駆除すべきと考えます。イノシシについては可能ならワナ猟として、困難でも一時的に飼育して、セシウム汚染の数値を下げ、寄生虫、感染症などの心配のない食肉とすることが望まれます。
- ⑨ 都市と自然が残る里山が寄り添った本市の魅力を発信するとともに、市民団体や事業者さらに市民の協力のもと、その保全と維持管理に努めてもらいたい。
- ⑩ 里山や水辺の生態系や希少種を守るとともに、イノシシやカミツキガメ等の有害鳥獣、外来生物の更なる対策を検討してもらいたい。
- ⑪ 都市と自然の豊かさをあわせ持つ本市の魅力を発信続けるとともに、市民団体や事業者さらに市民の協力のもと、その保全と維持管理に努められたい。
- ⑫ 本市の主要産業である農業を広く知っていただくよう「地産地消」運動や農業体験の機会を継続的に実施されたい。
- ⑬ 印旛捷水路、双子橋一浅間橋間の太陽光発電について、自然が無くなると思っていたが、自然の地形を残し、樹木も残してあり、良い設計だったと思います。

■基本目標 2（生活環境）

安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- ① 車からの排出ガスを減らし、車による騒音や振動を少なくする対策の1つとして、一定の区域内の最高速度を30km/hに制限する「ゾーン30」の適用を積極的に進めてほしい。
- ② 街路樹や公園の樹木や花壇などに使用する薬剤については、アレルギー対策を考慮し必要最低限のものにしたい。
- ③ 原発事故による放射能はまだホットスポットが危険であると思う。里山を流れる水路や現在測定している幼稚園学校等を重点的に測定し、結果を速やかに公表し市民にきちんと伝えるようにしたい。
- ④ 市街化区域外等の住宅増加により河川、沼の水質を悪化させていると思われますので、下水道・合併浄化槽の一層の普及が望まれます。
- ⑤ セシウム汚染については、空間線量のデータが白書に掲載されています。簡易測定がもっと多くの場所でされていますので、白書にも参照できるような記載がある方が丁寧だと思います。光化学オキシダントについては、原因の一つと考えられる車の通行量を抑制することは現実的ではないので、環境を汚さない車への転換となるべく車を使わないで済むようなまちづくりが望まれます。
- ⑥ 湖沼については、まだ環境基準をクリアしていないことから早急に水質浄化対策を検討してもらいたい。
- ⑦ 環境基準が未達成な主要河川の水質（BOD濃度）について、その要因を特定し、対策を実施して継続的に基準内に収まるよう配慮されたい。

■基本目標3（都市環境）

都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- ① 大規模流通施設の建設や宅地開発のスピードを緩め、住環境の悪化を防ぐよう配慮してほしい。
- ② コミュニティーバスの利用を図り、車の利用回数を減じていく試作を進める。そのためにバスのコース・増発に努力したい。
- ③ 山林、耕作放棄地等に家庭ゴミ、雑多な廃棄物の投棄、水田や道路端にはペットボトル、空き缶等が捨てられます。防止看板の設置を望みます。民地に投棄された物についても片付けをお願いしたい。
- ④ 印西市は商業施設の集積が進んでいて便利な都市生活が享受できています。商業がより良い形で発展していくよう企業にも働きかけて頂きたい。
- ⑤ ゴミゼロ運動参加団体数が減少していることはとても残念なことである。快適で住みよい町にするためにも、ゴミゼロ運動は多くの団体が協力して実施できるよう、より効果的な運動を推進されるよう検討してもらいたい。
- ⑥ 印旛歴史民俗資料館や木下交流の杜歴史資料センターには歴史資料が数多く展示されているが、来館数が少ないと聞いているので、積極的に広報活動や魅力ある講座等を開催するよう推進してもらいたい。

■基本目標4（地球環境）

低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- ① 公園や学校など身近にある環境素材（樹木やグリーンベルト帯の植物など）は市民

(子供たちを含む)の景観に利するとともに学習素材ともなる。よってそれらの管理には十分配慮することが大切と考える。

- ② 小中高校生が積極的に環境イベントにかかわるような施策を考えたい。
- ③ 太陽光発電システムの設置普及が望めます。
- ④ 化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が望めますが、家庭の屋根につける太陽光発電、温水器については補助があり推進されています。一方農地を太陽光発電施設にすることについては、太陽光の反射率の増加、緑や保水力の減少と自然環境にとってマイナスと考えます。農地として活用しながら、太陽光発電も行うソーラーシェアリング方式については推進しても良いのではないかと思います。化石燃料を消費する車の使用を少なくするため、今まで以上にふれあいバスの利便性を向上されることを望みます。また電力の消費を抑制する省エネにも取り組んでいただきたい。緑のカーテンのコンテストなどの話題づくりにも努力願いたい。また千葉電子申請サービスのような取り組みが進むことを希望します。
- ⑤ 温暖化対策として、公共機関のグリーンカーテンの設置だけではなく、一般市民にも広く設置してもらえよう、苗の支給等を検討してもらいたい。
- ⑥ 3Rを推進するためにも、クリーンセンターの施設見学の機会を増やす等、積極的に啓発活動の充実を検討してもらいたい。
- ⑦ 温室効果ガスの排出削減を行う「緩和」(省エネルギー等)と共に市民生活や生態系を守る「適応」(豪雨対策等)についての情報の発信を継続されたい。
- ⑧ 資源となる生ごみの徹底した減量化、堆肥化そして雑紙の回収に市民の協力をえて、焼却負荷の削減に努力されたい。

■基本目標5 (人づくり)

環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して

- ① 環境に資するボランティア活動には積極的な補助が望めます。また子供たちが参加できるよう学校の協力も求められます。
- ② 各小学校でも地域の教育力を活かした教科の学習に環境学習を取り入れ、充実を図っている。将来、その学習が地域で活かされるよう、将来の環境像を提言してもらうワークショップの設置の機会をつくり人材育成に努めてもらいたい。
- ③ 環境活動団体数が減少傾向にあることが気がかりである。市民や事業者の環境保全意識の啓発を図る取り組みを早急に検討してもらいたい。
- ④ シルバー世代の方々やボランティアの方々を広く募集。